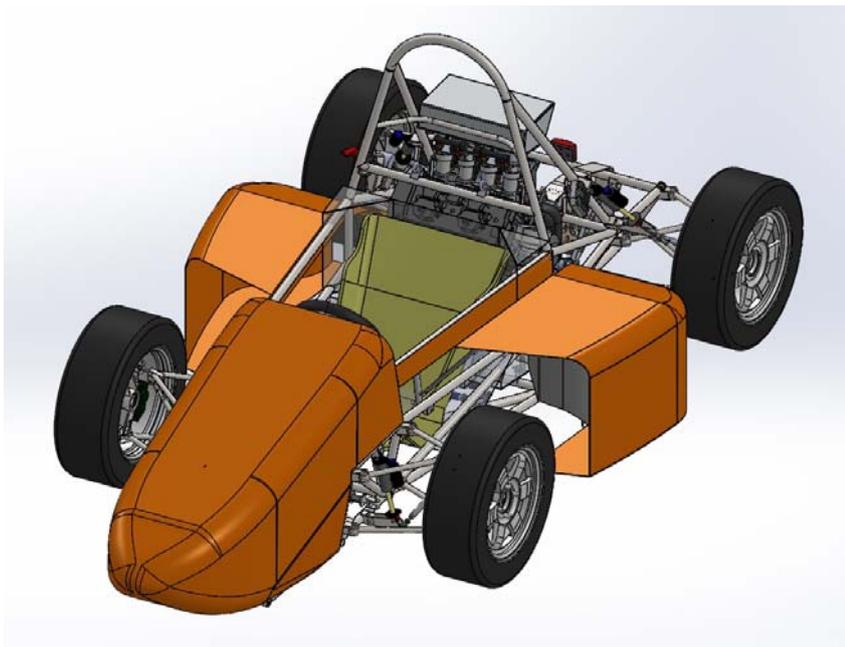




確かな手応えと完走を目指して!

山口東京理科大学 学生フォーミュラチーム
TUSY Formula



今回の総合結果・部門賞

●総合61位

Profile チーム紹介・今までの活動

私達、山口東京理科大学学生フォーミュラチームは第10回大会にて初出場を果たしました。チームが結成して今年で4年目となり、第12回大会には計25名のメンバーで挑みました。第12回大会では総合順位35位以上を目標に活動をして来ました。今後も目標達成のために活動を続けます。

Team-member チームメンバー

石本 和聖 (CP)

貴島 孝雄 (FA)、秋定 直宏、秋吉 祐希、安部 祐希、上森 大雅、紀藤 文弥、酒井 涼丞、高山 健太、田中 亮也、徳野 健太、樋口 晃平、福永 博基、眞庭 光生、山縣 慎雄、小倉 直人、池 恭史、柿原 崇寛、古賀 郁也、永富 洋平、野村 翔太、目取真 侑樹、佐藤 義晃、園 将弥、田上 晶遥、原賀 宰

Sponsors スポンサーリスト

日信工業、NTN、レイズ、ソリッドワークス・ジャパン、ミスミ、正屋、初田製作所、サンライト、亜細亜製作所、ダウ化工、和光ケミカル、キノコニエンタープライズ、住友電装、本田技研工業、F.C.C.、IRS オートエグゼ

Presentation プレゼンテーション

マシン名: アサギマダラ 3 号

マシンコンセプトは第11回大会の車両と同様に「リニア感のある操縦性」としました。「リニア」とは、ドライバーが入力した値に対して線形に反応するような感覚をドライバーが感じる事ができるという意味です。

今年度は、デフマウント等流用できるパーツは流用し、マシン製作への時間短縮を行いました。また、スキッドパッドやオートクロス、エンデュランスにおける旋回時のインリフト問題が昨年度起こったことから、今年度はリヤにスタビライザーを設けることで、ロール角を抑える設計を行いました。車両の最小旋回半径を小さくする等して、旋回性能を向上させました。エンジンにはホンダPC40Eを搭載し、昨年度より小型化したフレームに補機類をコンパクトに収めマスの集中化を図りました。吸気系ではインジェクターホルダーを自作し、構造を簡素にすることで軽量化を行いました。

次年度の活動では、今年度車両にて不足していた実走行時の動的性能の確認を充分に行い、次年度の車両は今年度の車両を熟成した物とします。

Participation report 参戦レポート

今までの大会参戦の中でいちばん完走に手応えを感じた第12回大会でした。技術車検もほぼ問題なく通り、ブレーキ試験で少し手間取りましたが、しっかりと確実に1日で車検に合格し、動的種目に進むことができたのは、今までの積み重ねてきた経験があつたのだと思います。また、今年度は静的種目にも力を入れ、確実に順位アップできるように準備していきました。動的種目においては、アクセラレーション、スキッドパッド共にタイムは向上し、マシンの性能が確実に上がっていることを確信しました。

しかしながら、オートクロスにおいて、急にエンジンが吹けなくなるトラブルに見舞われ、大会レギュレーションである133%ルールに入るタイムを残すことができず、残念な結果となりました。チーム一同、完走を感じていただけにこの結果は大変悔しいものを感じています。反面、ハード面でのトラブルは一切なかったため、来年度こそは完走できる自信を感じる大会となったと思います。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/53.html>